

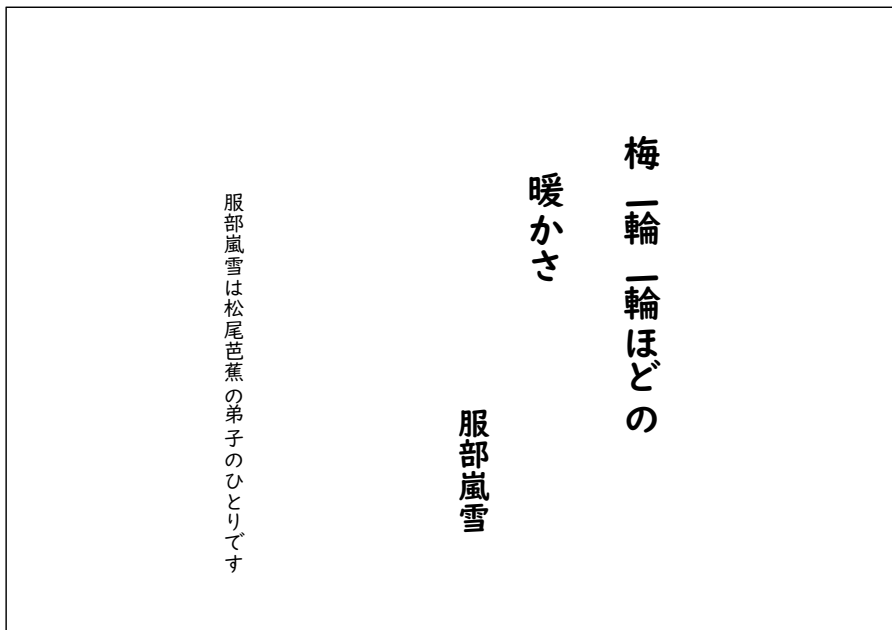
図書だより ライブラリーニュース

Library News

平成 30 (2018) 年 2 月
府中市立府中第八中学校
図書室担当 粟谷千衣子

今年の冬は寒く、春が待ち遠しい日が続いています。

いよいよ今年度も仕上げの時期を迎えました。学年末テストが終わると、総合学習発表会や合唱コンクールと忙しくなりますが、朝読書の時間はもちろん、隙間の時間も上手に使って読書に親しんでください。



1月の図書室 (開館日数 13日)

入館者数 622 人 (1日平均 47人)

貸し出し冊数 305 冊

	男子	女子	合計
1年生	55	124	179
2年生	109	176	285
3年生	74	84	158

学年毎の上位クラス					
1-G	20	2-B	76	3-D	13
1-C	15	2-E	39	3-B	11
1-F	11	2-A	29	3-A	9

3月の貸し出しについて ただし、延滞中の本がないことが条件です。
年度末につき、春休みの貸し出しはありません。

3年生は3月12日(月)を最終返却日として8日まで貸し出しをします。

1、2年生は3月13日(火)を最終返却日として12日まで貸し出しをします。

図書室を利用し、ぜひいろいろな本を借り出し、読書を楽しんでください。

2月のこよみから 2月14日はバレンタインデー

バレンタインデーは3世紀ローマで殉教したキリスト教の司祭・バレンタインの命日。当時のローマ帝国では兵士たちの戦意に支障をきたすとして、若者の結婚を禁じていましたが、バレンタインは若者たちを哀れに思い、密かに結婚させていました。そのことが皇帝の知るところとなり、捕えられ、この日に処刑されてしまいます。このため2月14日は“恋人たちの日”と言われるようになりました。

日本ではこの日にチョコレートの年間消費量の2割程度が消費されるといわれています。チョコレートを贈る習慣は19世紀の後半イギリスで始まったそうです。

2月生まれの作家たち (生まれ年の上に*がある作家は旧暦での誕生日を表しています。)

4日	リンドバーク(1902)	15日	井伏鱒二(1898)	21日	石垣りん(1920)	26日	与謝野鉄幹(1873)
6日	やなせたかし(1919)	15日	松谷みよ子(1926)	22日	高浜虚子(1874)	27日	スタインベック(1902)
7日	ディケンズ(1812)	17日	島崎藤村(1872)	23日	ケストナー(1899)	28日	二葉亭四迷(1864)
9日	八木重吉(1898)	20日	志賀直哉(1883)	24日	W.グリム(1786)	29日	赤川次郎(1948)
13日	佐藤さとる(1928)	20日	石川啄木(1886)	26日	ユーゴー(1802)	29日	辻村深月(1980)

生活の苦しみをうたった歌人 石川啄木 (1886~1912)

石川啄木(本名は^{はじめ}一)は明治19(1886)年岩手県日戸村(現在の盛岡市)に寺の住職の子として生まれた。間もなく隣村の渋民村へ移り、終生この地を故郷とした。盛岡中学に入学すると、上級生の金田一京助から文学的な影響を受け、雑誌『明星』などを愛読した。しかし文学に熱中しすぎたことと、後に妻となる堀合節子との恋愛がもとで成績不振をまねき、退学。1902年16歳で文学を志し上京。与謝野鉄幹のもとで詩作に励むが、翌年、病のため帰郷。再起を図って『明星』に啄木



と名のって長詩を発表。1905年浪漫詩集『あこがれ』を刊行する。一家を支えるために渋民村の代用教員となるが現状に満足できない啄木は、北海道に渡り、転職を繰り返した。貧困と病苦という現実、浪漫的描写から生活的実感描写へと文学的变化を導いた。1908年、金田一京助を頼って再び上京。小説を書くが認められず、「朝日歌壇」の選者となったのを機に歌人として活動する。1910年第一歌集『一握の砂』を刊行。平易な言葉で日常の悲喜こもごもの感情を素直に歌いあげた短歌は好感をもって歌壇に受け入れられ、生活派短歌とよばれた。また三行分かち書きの新しい形式によったことも大きな特色となっている。しかし貧困からは抜け出せず、八方塞がりの中で社会主義へ接近した。1912年4月13日結核のため、妻や友人の若山牧水に看取られながら死去。26歳だった。没後、^{ときあいか}土岐哀果、若山牧水によって第二歌集『悲しき玩具』が刊行された。

先月終わりに、図書委員会では、無言 Week を実施しました。無言 Week は終了しましたが、引き続き、図書室ではマナーを守って、静かに利用しましょう。ご協力お願いいたします。

巻て！みて！よんで！

この冬は東京でもたくさんの雪が降りましたが、北陸地方は例年にない積雪で、大きな被害もでました。災害は困りますが、このような時には雪がテーマの本を読んでみませんか。

『雪は天からの手紙—中谷 宇吉郎エッセイ集』 池内 了 編 岩波書店 404/ナ

1900年、今回大雪になった石川県加賀市に生まれた中谷宇吉郎は、世界に先駆けて「雪氷学」の分野を確立した物理学者です。1936年世界で初めて人工雪を作ることに成功し、雪の結晶は、温度と水蒸気の値を変えれば形が変わることを突き止めました。この本は、中谷博士の代表的なエッセイが内容に応じて部建てされて収録されていますから、興味のあるところから読んでみてはいかがでしょうか。

2月21日は国際母語デーです。

国際母語デーは、文化や言語の多様性、それぞれの母語を尊重することを推進することを目的に制定された国際デーのひとつです。1952年のこの日、当時パキスタンの一部だったバングラディッシュのダッカでベンガル語を公用語に求めるデモに参加していた学生が命を落とすという悲劇が起こりました。この事件にちなみ、ユネスコが1999年に国際母語デーを制定しました。そこで、文化や言語の関係する本を紹介します。

ところで、世界で話される言語の数は一体いくつ位あると思いますか。世界的な言語データベース・エスノローブではおよそ7000言語、三省堂の『言語学大辞典』でも約3500言語が収録されているそうです。中国語や英語のように多くの人が母語として使う言語がある一方で、経済や科学技術の発展により、使う人が少なくなり、なくなってしまいそうな言語もあります。

『なくなりそうな世界のことば』 吉岡 乾 著 創元社 802/ヨ

この本は、使う人が少ない少数言語のなかから50ほどが紹介されており、それぞれの言語の研究者がその言語にとって「そのことばらしい」単語を選び、紹介しています。言葉はその話者の生活や環境、そこで育まれた文化と密接な関係があると言われています。この本を世界地図とともにパラパラとめくりながら、その向こうに広がる世界を想像してみませんか。『なくなりそうな世界のことば』に載っている言語は、本の後ろにいくほど話者が少なくなります。つまり、だんだんなくなる可能性が高くなるよう構成されています。最後から二つ目に紹介された言語は、北海道のアイヌ語です。アイヌ語は北海道を中心に暮らしていたアイヌ民族が話していた言語です。明治政府が、アイヌの人々にアイヌ語の使用やアイヌ固有の習慣を禁止する法律を作ったので、アイヌの人々の間で自由にアイヌ語を話せる人が減り、文化も衰退していくことになりました。

『知里幸恵物語—アイヌの「物語」を命がけて伝えた人』 金治 直美 著 PHP 研究所 289/チ

この伝記で紹介されている知里幸恵さんは、明治36(1903)年にアイヌの村に古くから続く家に生まれました。祖母がユカラ(アイヌの叙事詩)の名手であったことから、言語学者でアイヌの研究者でもあった金田一京助の研究に協力し、『アイヌ神謡集』を書きました。文字のないアイヌ語をカタカナに置き換えることは難しくローマ字表記で文字に起こし、和訳を付けました。しかし体が弱かった彼女は、『アイヌ神謡集』が出版される前に亡くなってしまいます。まだ19歳でした。知里幸恵の努力と彼女の遺志を引き継いだ人々により、アイヌの物語は後世に残すことができました。

時代も地域もさまざまですが **主人公は同世代**

『ゆめみの駅 遺失物係』

安東 みきえ 著 ポプラ社 913/ア

学校からの帰りの電車のなかで「失くしちゃった」と独り言を言ったあたしに、前にいたおばあさんが、由米美濃駅のいしつづつがかりに行くよう、すすめてくれた。さっそく訪ねてみると、そこは誰かが忘れた「おはなし」が届けられるという不思議な場所だった。そして…。

『いくたのこえよみ』

堀田 けい 著 理論社 913/ホ

尾形は、その日、朝からツイてなかった。いろいろ空回りして、とうとう塾なんか行ってもらえるか～という気持ちになり、デパートの屋上へ。そこで偶然、同級生の生田に会う。そして彼女が、ひとの心が読めることを知り、自分も「こえよみ」ができるようになりたいと修行することにしたが…。

『シャーロット・ドイルの告白』

アヴィ著 あすなろ書房 933/ア

時は、1832年。シャーロットは上流階級の家生まれ、淑女となるよう厳格な教育を受けている13歳の少女。そんな少女が、大西洋を渡る帆船シーホーク号に、ただひとりの乗客として乗船するという思わぬ事態に陥った。この航海は、はじめからどこかおかしかった。彼女の運命は…。

『タイガー・ボーイ』

ミタリ・パーキンス著 鈴木出版 933/パ

物語の舞台はインド。トラが生息するマングローブの森、世界遺産シュンドルボン。成績優秀なニールは、奨学金を取り、都会の学校に行くよう期待されていますが、島を離れたくない彼は、勉強に身が入らずにいました。ところがある日、子どものトラが保護区から抜け出たことを知り…。

『ペーパーボーイ』

ヴィンス・ウォーター著 岩波書店 933/ボ

11歳で吃音症の主人公は、自分の名前さえも覚えてしまう。そんな彼だが、夏休みの間、友達の代わりに新聞配達をすることになった。仕事を通しての出会いは、彼を成長させる。そして、思いもよらない事件が、彼を待っていた…。吃音症の著者が、自らの経験をもとに書いた物語。

『100時間の夜』

アンナ・ウォルツ著 フレーベル館 949/ウ

アムステルダムに住む14歳のエミリアは、父親のスキャンダルとその後のネット上での中傷に耐えきれず、ひとり憧れのニューヨークへ旅立つ。何とか入国審査を通過したものの、ネットで予約した部屋は存在せず、いきなり宿無しに。そしてさらに、街に巨大ハリケーンが近づいていて…。